

# 原状回復工事の業務効率を改善

## キャンズ 3社で履歴データを共有可能に

原状回復工事会社のキャンズ(神奈川県横浜市)は4月より、原状回復工

事の見積額や工事箇所履歴を調べられるクラウドシステム「interイーネット」の外販を始める。もともと自社システムとして特注で制作し

たものだが、利便性の高さから外販することを決めた。

キャンズの飯田龍也社長は「料金履歴の参照は年がら年中きていた。一人の事務作業員が一日中、それだけの対応に費やす日もあり効率が悪かった」とシステムをつくら

たときに、過去の発注料金の参照を工事会社側に求めていた。システムを共有すれば、おのおの立場で好きなときにスマートフォンから参照できる。工事会社側もこれまで煩雑だった作業を軽減することができ

る。今後、機能を拡張するために積極的に利用会員を増やしていく。同システムを開発したシステム計画研究所(東京都渋谷区)の大林社長は「今後利用者が増えれば、受発注のマッチングサービスも展開できるかもしれない」と期待を寄せた。現在は無料で使えるが、将来的なマネタイズを目標として有料化を検討している。

発注に必要な書類はすべてシステム内で作成できる。書類確認のやりとりや意思疎通もシステム内で行うため、業務の簡略化が可能。

キャンズの飯田龍也社長は「料金履歴の参照は年がら年中きていた。一人の事務作業員が一日中、それだけの対応に費やす日もあり効率が悪かった」とシステムをつくら